

障害者の力を業務に活かしませんか。 — 茨城県共同受発注センターについて —

一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会
事務局長 鈴木 哲也

1. 一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会の概要

一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会（以下「協会」）は、「心身障害者の社会参加の促進及び心身障害者に対する理解を深め、もって豊かな福祉社会の実現に寄与する」ことを目的に、2003年3月、複数の障害者福祉関係団体が統合し、社団法人として発足しました。

その後、2011年9月に一般社団法人に移行し、現在は、知的障害者福祉施設、身体障害者福祉施設を中心に、148の施設や事業所が加入する団体となり、研修に関する事業、自立支援に関する事業、就労支援に関する事業、スポーツ・文化活動などへの参加の促進に関する事業などに会員とともに取り組んでいます。

2. 「ノーマライゼーション」と「完全参加」を目指す

茨城県は、障害者基本法や障害者総合支援法等に基づき策定した「新しいばらき障害者プラン」の中で、障害の有無で分け隔てられることなく、障害者が一般社会の中で普通の生活を送ることができる「ノーマライゼーション」と、自らの意思によりあらゆる分野に参加する機会が確保される「完全参加」を基本理念に掲げ、各種施策を推進しています。その一つに障害者の「就労機会の拡大」があります。

障害者の就労は、経済的な自立に繋がるだけでなく、本人の生きがい向上と社会参加を実現するうえでも、大きな役割を担っています。このため、新しいばらき障害者プランでは、障害者支援施設・障害福祉サービス事業所（以下「障害者施設」）の利用者が企業等へ就職する「一般就労」の促進と、障害者施設での「福祉的就労」における工賃水準の向上などに努めるとしています。

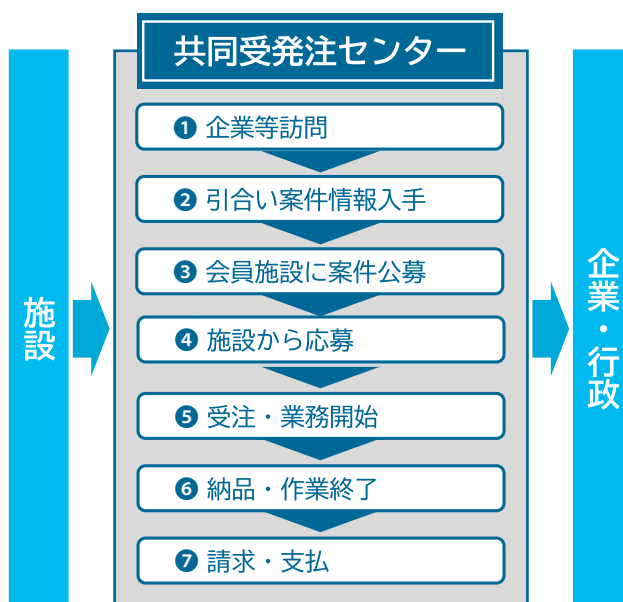
しかし、福祉的就労の場の一つである本県の「就労継続支援B型事業所」の工賃水準は、月額14,349円（2020年度）と全国平均額（15,776円）を下回っています。そのため、障害者施設における製品の販路拡大や仕事の確保、新たな仕事

の開拓、施設外就労の促進などが必要となり、県は「茨城県共同受発注センター」を設置し、協会がその業務を受託しています。

3. 茨城県共同受発注センターの取り組み

茨城県共同受発注センター（以下「センター」）では、活動強化員が企業等への訪問などにより業務の受注に努め、その業務をセンターに登録している約250の障害者施設に斡旋しています。企業等と障害者施設の円滑な橋渡しを行うため、作業現場の確認や打ち合わせ機会の調整など、きめ細かく対応しています。

また近年、国は「農福連携※」を推進しておりますが、センターにおいても、農福連携アドバイザーを設置して農家等への働きかけを行い、確実に実績を伸ばしています。



図：受注フロー

※農福連携：障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組。この取組により、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もある。

4. 障害者施設の主な業務

障害者施設で行っている主な業務は、作業を企業等から請け負い、施設内または施設外で実施する「①業務の請負」と、施設で農産物や製品を生産して販売する「②自主製品の製造・販売」との2つに区分されます。これらをさらに業務内容で分けると、下表のようになります。

表. 障害者施設で行っている主な業務

区分	業務内容	
①業務の請負	施設内	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷 ・クリーニング ・情報処理、テープ起こし ・簡易加工 ・縫製作業など
	施設外	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃・施設管理 ・除草 ・農業・園芸 ・飲食店等の運営 など
②自主製品の製造・販売	食品	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物、農産加工品 ・お弁当、パン・お菓子など
	食品以外	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品 ・小物・雑貨など

5. 障害者施設の紹介

以下に、障害者施設と、そこで実施している業務の一例をご紹介します。

(1) 印刷業務

「水戸市身体障害者就労支援施設のぞみ」では、印刷機器を備えており、報告書や論文、文集、封筒、名刺（点字入りも可）など、幅広い印刷に対応しています。また、付随してダイレクトメールの折り込みなどにも対応しています。



印刷業務の様子（水戸市身体障害者就労支援施設のぞみ）

(2) 簡易加工業務

石岡市に所在する「障害者支援施設はーとふる・ビレッジ」では、ボールペンやサインペンなどの文具の組立、袋詰め、箱入れ作業を製造工程

別に効率的に進めています。根気が必要となる細かい作業にも精力的に取り組み、集中的に仕事をこなしています。



文具組立業務の様子（障害者支援施設はーとふる・ビレッジ）

(3) 清掃・除草、農作業補助

石岡市所在の「知的障害者授産施設しろがね苑」では、会社や事務所などへの定期清掃作業、公園・工場等の芝刈り・除草作業などを実施しています。

加えて、収穫時の農作業の補助や製品作成などの軽作業現場出張サービスといった、施設外でのサービス提供に積極的に取り組んでいます。



収穫作業の様子（知的障害者授産施設しろがね苑）

センターで斡旋した業務の実績は年々増加しており、2020年度には140,391千円（継続受注分を含む）に達しました。しかし、県内には多くの障害者施設があるため、まだまだ受注が不足しています。

本稿をご覧くださいました企業の皆様方からも、各種業務を受注できれば幸いです。

また、業務内容については、上記はほんの一例であり、そのほかの業務についても、ご発注いただけます。障害者施設側との調整については、センターが行いますので、疑問点やご相談ごとなどがございましたら、お気軽にお問合せください。

6. 発注者の声

障害者施設への業務の発注は、単なる社会貢献活動ではなく、労働面や経済面など、企業経営への貢献が見込まれます。以下では、過去の受注に対して寄せられた発注企業の皆様方のお声をご紹介します。

わたしたちの仕事を任せられる大切な戦力

当社は水戸ヤクルトグループに所属し、一般企業や病院、一般家庭などの清掃を主に行っております。清掃業界は慢性的に人手不足で、数年前より福祉施設の皆さんにお仕事をお願いしています。

私は、NPO法人IMCの理事長も務めており、その活動の中で福祉施設の方と接する機会が多く、仕事をしたいという意思に対し、働く場所が少ないということを知りました。そこで何か出来ることはないかと考え、茨城県共同受発注センターの紹介で、水戸市・つくば市・守谷市などで今まで当社の従業員が行っていた作業の一部を福祉施設の皆さんに外注しています。

また水戸ヤクルトのご支援のもと、水戸ヤクルトの社内の日常清掃や屋外での分別作業を福祉施設の皆さんにお任せしています。そこでは、ともに働く仲間として、笑顔で挨拶している姿がとても印象的です。

ともに地域に密着した共存共栄できる笑顔のある社会づくりを目指す、わたしたちの仕事を任せられる大切な戦力として、福祉施設の皆さんの存在は欠かせないものとなっています。

水戸ヤクルトグループ・日本清掃株式会社
代表取締役 千ヶ崎 勝巳 様

丁寧な作業をして頂き、安心して仕事をお任せすることができます

ぺんてる株式会社は小美玉市で55年に亘り、サインペン、えのぐ、クレヨン、ボールペンなど、画材・筆記用具を中心に生産活動を続けています。中でも、お客様の梱包ニーズや個別の小口注文への対応も不可欠となっており、弊社の社内だけでは対応の出来ない、多種多様な手作業業務が発生しており、その対応には多くの協力企業様にお願いしております。

このようなお仕事は、福祉施設の皆様にも長い間、お手伝いを頂いております。サインペンなどの筆記具を色別にセット詰めすることや、1本ずつポリシースに詰めるお仕事等々、仕事の内容は多岐に渡っています。ひとつひとつの作業工程をととても丁寧に行って頂き、管理も徹底して頂いて

いるので、品質の面でも問題もございません。

また、突発的に発生する急を要する作業や小ロットの作業でも、快くそして迅速にご対応いただき本当に助かっています。

色々な状況の中で、お任せできる面も多々あります。是非、多くの企業様でも活用されては如何かと思えます。

ぺんてる株式会社 茨城工場
執行役員茨城工場長 長谷川 浩 様

■ こんな仕事もしています！

JRAの協力による「ゼッケンバッグ」の製造・販売

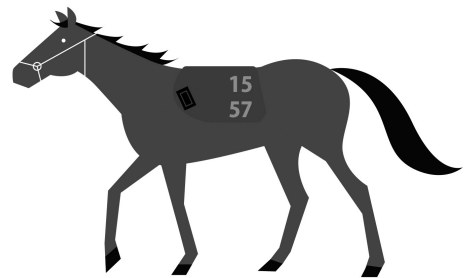
協会では、日本中央競馬会美浦トレーニング・センターのご協力により、競走馬の調教用に使用したゼッケンを譲り受け、会員施設において、これを再利用した「ゼッケンバッグ」の製造・販売を行っています。

ゼッケンバッグは、色や数字など同じものは2つとない「世界にひとつだけ」のもので、作られているのは全国でも茨城県と栗東トレーニング・センターのある滋賀県だけです。

協会の福祉の店「ハーネス」での販売（ネット通販あり）やイベントなどにおける販売のほか、各施設所在市町村のふるさと納税返礼品としても扱って頂いております。

協会ホームページURL：<http://www.harness.jp>

ゼッケンバッグができるまで ～たくさんの想いがひとつのバッグに～



1. JRA美浦トレーニング・センターから使用済調教用ゼッケンの提供



2歳馬
緑ゼッケン
×橙文字

3歳馬
黒ゼッケン
×橙文字

4歳馬以上
黄ゼッケン
×黒文字

2. 洗う、ほどく、縫うなどのすべてを手作業で



3. オリジナルバッグの完成



7. 障害者施設との取引のポイント

このように、障害者施設への業務の発注は、企業経営に貢献する可能性が高いですが、全ての場合において上手くいくとは限りません。そこで、障害者施設と取引する際のポイントについて、発注者の経験に基づくアドバイスをご紹介します。

品質向上と安定取引には、積極的なコミュニケーションを

株式会社ABM（かすみがうら市）では、7年前からボールペンの組立作業などを継続的に障害者施設に発注しています。現在8施設と取引しています。

最初に、障害者施設と取引をした時は長続きしませんでした。その経験から、再開するにあたっては、「発注者も作業実態を把握しておく必要がある」と考え、施設を直接訪問し作業の実態などを把握しました。また、難易度の違う様々な仕事を持ち込み、どこまで出来るのか、どうやったら出来るのかの打ち合わせを行いました。

障害者施設といっても、それぞれの障害者の方の障害の区分、サポートする支援員の熱意などで、出来ることが全く違うことが分かりました。今では、取引先の障害者施設の状況を把握して発注することが、安定して仕事をお願いできるカギになると考えています。

また、様々な体験機会の提供も行っています。単価の高い高度な作業にも取り組みたいと考えている施設に対しては、当社の工場で、サポートする支援員と当社の従業員と一緒に働く機会を提供するほか、障害者の方が見学する機会もつくっています。こうした体験の機会をはじめとする積極的なコミュニケーションは、作業品質の向上につながっています。それでも、作業品質が安定するまでは少なくとも1～2ヶ月が必要で、取引開始時には少し我慢が必要です。

株式会社ABM 代表取締役 阿部 稔 様

業務効率の向上には、障害者に合わせた作業方法の改善を

有限会社照沼農園（水戸市）では、約2年前から水耕栽培で農福連携に取り組んでいて、現在2施設に作業の一部をお願いしています。

水耕栽培は、扱う物の重量が軽いことから、農福連携に向いていると考えていました。現在は、植え付けから出荷のための袋詰めまで、幅広い工程を障害者の方をお願いしています。対象の業務を拡大する中で、我々が考えていた作業方法では、障害者の方が出来ないことが多くありました。

では、どうやったらお願いできるのか。結局、障害者の方に合わせた作業方法を新たに考えるしかありませんでした。ところが、新しい作業方法を考え出して実行すると、健常者である当社の従業員にとっても、新しい作業方法の方が楽で効率が良いということが多々ありました。このように、作業方法の見直しを行ってきた結果、10以上の工程を改善し、大幅に業務効率が向上しました。これは予想外の効果でした。

一方で、障害者の方も安定した作業を実施出来るようになるまでは時間がかかります。経験的には、半年くらいでしょうか。逆に半年待つ間に、作業はどんどん早くなっていきます。作業効率が3倍向上した例もあり、障害者の方の成長には、正直驚かされます。しかし、単に待つだけでは業務効率は向上しません。サポートする支援員とのコミュニケーションが重要です。どうすればより良くなるのか、何が悪かったのかを話し合いにより改善していく必要があります。

有限会社照沼農園 代表取締役 照沼 洋平 様

■ お問合せ・ご相談先

茨城県共同受発注センター

〒310-0852

水戸市笠原町993-2

茨城県精神保健福祉センター内

TEL:029-243-3022

FAX:029-243-3033

E-mail:kyodo@harness.jp

URL:https://kyodojuhacchu.pref.ibaraki.jp

一般社団法人

茨城県心身障害者福祉協会

〒310-0851

水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館内

TEL:029-244-7461

FAX:029-243-4429

E-mail:info@harness.jp

URL:http://www.harness.jp

はじめて障害者施設に業務を発注する際には、様々な不安があるかと思います。「障害者施設ではどのような作業ができるのか」など具体的な疑問は、是非センターにご相談ください。